

NACT YOUTH PROJECT
2022

これから生きるユースと一緒に
新しい学び舎をはじめます。

新美塾!

記録集



NACT YOUTH PROJECT
2022

これから生きるユースと一緒に
新しい学び舎をはじめます。

新美塾!

記録集

ご挨拶 03

新美塾!前夜 山際真奈 04

中高生向けの“表現の塾”を作る 下道基行 06

表現という木 08

TIME LINE 10

白手帳 12

ミッション 14

集会 30

ラジオ 38

グループLINE 43

卒業式 54

卒業式 ユースのコメント 56

卒業後の保護者のアンケートから 58

スタッフコメント 60



国立新美術館は、コレクションを持たないアート・センターとして、2007年、独立行政法人国立美術館の5番目の美術館として誕生しました。開館当初から、様々な展覧会や教育普及事業を展開してまいりました。しかし10代、なかんずく中高生の展覧会への来場者や、教育普及事業への参加者がなかなか増えないことが課題でもありました。私たちはかねてより美術をはじめ芸術・文化は、思春期にあたる彼らの心身の成長にとって欠くことのできない重要なものと考えてきました。そこで、15周年を迎えた令和4年度、私たちは課題解決に向けた取り組みとして、現代美術家を塾長に招いた《NACT YOUTH PROJECT 新美塾!》を始めることといたしました。

「これからの時代を生きるユースと一緒に、新しい学び舎をはじめます」とうたっている通り、新美塾!は10代が半年にわたって“表現”を学ぶ塾です。ユース(若い世代)に対して大人が良かれと思うことと、彼らが求めていることは、時にすれ違いますが。表現とは何か、というある種答えのない課題に、ユースと一緒に大人も真剣に取り組むことで、ともに学べるように心がけてきました。

塾長を引き受けて下さった現代美術家の下道基行氏とともに、いちから手作りで始めた新美塾!には、13名の素晴らしい1期生が参加し、充実した半年間を送ることができました。本書はその記録をまとめたものです。スタジオ訪問させていただいた現代美術家の風間サチコさん、ファッション・デザイナーの山下陽光さん、本活動のためにご協力をいただいた、国立ハンセン病資料館、長谷川町子美術館、長谷川町子記念館、渋谷区立松濤美術館、東京国立近代美術館他、皆さまに心より感謝申し上げます。

国立新美術館



新美塾! 前夜

山際真奈 (元国立新美術館 研究補佐員)

「自分自身の問いを見つける」ことは、口で言うほど容易くない。多様性や創造性という言葉がもてはやされる一方で、実際に自分の人生の多様な在り方に向き合い、創造的な選択を行うことは、様々な規範の中で生きている日々にとっては困難ですらある。

新美塾!の立ち上げは、そのような現代のオントロジーに対して、アートが何を成し得るのかという実験の現場だったのかもしれない。VUCA (不確実な時代) を生きる若い世代が、いつの時代にあっても価値や在り方の確実性に問いを投げかけてきたアートと出会い、日々感じている違和感や好奇心を探求し、表現する——そのようにして世界の見方を拡げることが、新美塾!の企画段階における核にはあった。それは、美術や美術館という文脈の内側に留まらず、私達はどのような世界にいるのかを問うプロジェクトでもあったのだ。

企画の構成は、WhitneyやMoMA、Tate等で実施されている、近現代美術の探求的な姿勢を土台とした教育プログラムに関するリサーチから始まった。

既に2000年代から取り組みが始まっているこれらのプログラムは、生き方の可能性を広げることを前提に、長期的な効果を視野にテーマが設定されている。鑑賞教育や造形的なワークショップだけでなく、アイデンティティや社会問題等、領域横断的かつユースが身近に感じられるテーマを中心としたプログラム構成だ。ユース自身による企画提案等も重要な要素となっており、参加者専用のブログやPodcast等も織り交ぜられていた。多様な参加者を担保するため、参加費は無料となっており、長期にわたる持続的な関係性の維持も特徴的だ。

このような事例を参考に、「自分自身についての知識」「アートや他者との対話」「身近な社会の評価基準とは異なる視点」「参加者自身による企画」「多様な同世代との出会い」「信頼できる大人によるサポート」等を通して、日々の当たり前を一時停止し、世界と、そして自分自身と改めて出会う場を目指し、企画の枠組みが練られていった。

その想いを、これまで「14歳と世界と境」をはじめ、若い世代と様々なプロジェクトを実践してきた下道基行氏にぶつけたところから、新美塾!は生き物のようにその形を変え、動き出していく。参加者の特性やリズムに合わせた流動的なプログラムの構成は、下道氏であったからこそ成せる業であり、全員が同じスピードで進む必要のない、即興的な創発の場が現れることになったのだ。

それは図らずも、「21世紀の教育」とも掲げられる、SEL*のベダゴジーとも共鳴していた。Social Emotional Ethical Learningと呼ばれるそれは、「自分自身の感情や感覚、目的意識を理解 (connect) する」と同時に、「他者の感情や感情を理解し、共感する」ことに焦点が当てられている。そしてそのような「気づき」と「共感」を育む土壌となるのは、「ジャッジされない環境=心理的安全性のある雰囲気」であり、そこから自分自身の感情や思考を表現する余白が生まれ、個々人の「らしさ」が発揮されるというものである。

下道氏を中心に、大人たちが塾生と一緒に全力で育み守ってきたこの秘密基地のような空間で起こったことは、もちろんこのSELの図式の中に納まりきるものではない。自と他へのフォーカスや、心理的安全性は前提の上で、自分が置かれている状況=日常を丁寧に見つめ直し、掘り起こし、軽やかに逸脱し、そうすることで初めて、「自分自身の問い」、ひいては「世界の面白さ」と本当に向き合う場が開かれていたのだ。そこには、共犯関係とも言える、全員で作りに上げる「今ここ」の感覚がはっきりとあった。

新美塾!前夜には想像し得なかった、関わる人全ての日常を巻き込んで作り上げられたこの場所が、参加した若者達のこれからの日々にとってどのような存在になっていくのか、思いを馳せながら。



*参考文献 ダニエル・ゴールマン、ピーター・センゲ (2022) 『21世紀の教育 子どもの社会的能力とEQを伸ばす3つの焦点』井上英之監訳、ダイヤモンド社

**至急
重要**

NACT YOUTH PROJECT 2022

これから生きるユースと一緒に
新しい学び舎をはじめます。

新美塾!

「新美塾!」は、13~18歳のための「表現」を学ぶ塾。
国立新美術館がはじめる新しい学び舎の塾長は...

なんか気になる!
と思った人は
こちらのウェブサイト
のぞいてみてください
または、

Q 国立新美術館 新美塾! で検索!

下道基行!!

しにみちもとゆき!! 直島(香川県)在住の
アーティスト!

美術館の

ウラガワ見たり、
アーティストのスタジオ
にみんなで行ったり、
オンラインで
話したり、いろいろします。

参加者ボシュウ!!

定員 10名 対象 13~18歳
2022年6月~12月開塾!

主催者 → **新** 国立新美術館
THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO

新美塾! 募集ポスター

NACT YOUTH PROJECT 2022 新美塾! 記録集

04

05

中高生向けの“表現の塾”を作る

下道基行（新美塾！塾長 / 写真家・美術家）

新美塾！は国立新美術館（新美）ではじまった“表現の塾”だ。

参加するのは、表現するのが大好きで学びたい！けど、まだ将来どんな職業に就きたいのかよく分からない、という中高生たち。

例えば、絵を描くのが好きだけど画家になりたいわけではない……とか、面白いことを考えて人を驚かせるのが好き……とか、建物や風景を見るのが好き……とか、料理人になりたいけどもっといろんな表現に触れてみたい……とか、クラシック音楽をやってきたけど現代美術に興味がある……など、さまざまな個性の生徒たちが集まっ



た。このコロナ禍で学校の行事や会話すら不自由ななかで、表現することが密かな生きる力になっているような彼らと向き合った半年間のプログラム。



2021年11月、僕へ新美の教育普及チームからこの「ユースプログラム」を一緒に作るお誘いがきた。

その企画は、アーティストと美術館と中高生が一緒になって作る新しい挑戦が描かれていた。企画書は、欧米の美術館ですすでに行われている「ユースプログラム」を参考にしていた。その時、僕ははじめて海外の美術館での「ユースプログラム」の取り組みに触れた。これまで様々な美術館や芸術祭の教育普及チームと作ったワークショップは、作家が講師となって催される数時間のイベントであり、どちらかという展覧会の補佐的な印象だった。それに比べて欧米型のこの「ユースプログラム」は、美術館の展覧会事業から独立して活動し、参加者と継続的な関係や場所作りを特徴としていた。例えるなら、美術館に軽音部の部室を作るようなイメージだろうか。僕自身、これまで旅をしながら作品を制作していた。その傍らで色々な国の中学校で特別授業を作りインタビューするプ

ロジェクトや、このコロナ禍の数年は移住した瀬戸内海の島で「子供の表現の塾（毎週水曜1時間半）」を継続している。この美術館での新しい試みは、単発のイベントという形ではなく、少ない参加者と日常的に深く関わる活動として強く可能性を感じた。表現好きの中高生が美術館に毎週通うような新しい部室や塾にならないか…そんな妄想が止まらなくなった。そこから美術館とのイメージのすり合わせ可能性の共有を始め、数ヶ月してようやく「中高生の参加者と半年間関わり、オフラインとオンラインを混ぜながら、表現の課題や鑑賞体験を行う」骨格ができていった。

次に、従来の美術館のワークショップの参加者の層だけではなく、このような“表現の塾”を本当に必要としている中高生の手が届ける方法を考えた。具体的には、学校内にポスターを貼ってもらって、さらに担任に勧めてもらえるようチラシを作成、そのチラ

シにスマホで見られる「表現が好きなら生徒募集！」の短い動画のQRコードを印刷した。チラシとポスターは首都圏の中学校や高校に送られた。

僕自身、高校1年生の頃、美術教師に地元の画塾のチラシを渡され勧められたことがある。画塾に行ってみると、いろいろな学校から表現の好きな生徒が集まってきていて、急に世界が広がった経験をした。きっと、自分の中だけで、表現の熱を温めながら疎外感を感じている中高生はたくさんいる。表現がないと生きられない生徒がたくさんいるはず。そういう生徒を知っている教師がこのチラシを手にも彼らの壁を突破してくれることを願って広報のアイデアにも時間を割いた。

嬉しいことに、実際に応募してくれた生徒の中には「先生にチラシを渡され勧められた」という美術館ワークショップ未経験者もいたし、予想を大きく上回る応募人数に僕もスタッフも手応えを感じた。それと同時に全員の参加したい気持ちに届けられなくて申し訳なくも思った。最終的に12歳から18歳の13人と共に第一回



の「ユースプログラム」新美塾！は始まった。

実際に半年間行われたルーティーンとしては、2週間に1回のペースで“奇妙な通信教育キット”《ミッション》が参加者に届く。これがメインのコンテンツだ。毎回その封筒を開



けると「インスタントカメラで毎日4枚ずつ日常を撮影してみよう！」や「自分だけの新しい箸を作ってみよう！」などの《ミッション》と塾長の僕からのメッセージが書かれている。その課題をそれぞれが日常生活の中で行い、最終的にオンラインで発表しあう。《ミッション》を作る中で一番大切にしたのは、「技術力」ではなく「観察力」にフォーカスすること。彼らが自分自身の日常を深く観察して、さらに自分だけの小さな発見をみんなに共有する楽しさを感じる。2週間に1回このオンラインの《集会》を開き《ミッション》の成果を見せ合う。さらに月1回、展覧会を見に行ったり、アーティストやデザイナーに会いに行くスタジオビジットのオフラインの《集会》が開かれる。最終的には10回の《ミッション》、そしてオンラインとオフライン合わせて13回の《集会》が行われた。さらに、それぞれの自己紹介や関係性をつなぐルーティーンとして毎週収録して共有する13人とスタッフだけの《ラジオ》(17回放送)、そしてそれぞれがこの半年書き込んだ《手帳》はボロボロになった。

半年間のプログラムを終え、最終日にささやかな卒業式が開かれた。その中である中学生は「新美塾で自分は確実に変わったと思う。でも何が変わったかはまだわからない。」と語った。この美術館のプログラムは、きっと普通の学校のクラスや家庭では出会えない人と出会って、表現を通して自分の小さな日常を見る目や将来を考える思考が少し変わったのではないかな。でもその本当の成果を感じられるのはまだまだ先の話かもしれない。もしかすると、卒業生の中からアーティストが出てくるかもしれないし、クリエイティブな料理人や大工や登山家など新しい仕事を生み出す人が出てくるかもしれない。それが今から楽しみだ。



次の《集会》の約束は10年後の今日、美術館前になった。



下道 基行 Motoyuki SHITAMICHI

1978年岡山生まれ。2001年武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。日本国内の戦争の遺構の現状を調査する「戦争のかたち」、祖父の遺した絵画と記憶を追う「日曜画家」、日本の国境の外側に残された日本の植民／侵略の遺構をさがす「torii」など、展覧会や書籍で発表を続けている。フィールドワークをベースに、生活のなかに埋没して忘却されかけている物語や日常的な物事を、写真やイベント、インタビューなどの手法によって編集することで視覚化する。

<http://m-shitamichi.com>



表現という木



表現が生まれる構造を木に例えて描いた(ある本を参考に自分の解釈で)。

表現されたアウトプットや作品を「花や実」に例えると、鑑賞者は普段「花や実」だけを見ているということになる。でも、「花や実」は木の先端の一部であり、それを深く理解するためには木全体を見る必要がある。この木全体はひとりの表現者の例えだ(芸術家はさまざまな表現者の中の一つ)。

まず、地上には目に見える存在があり、地下には目に見えないバックボーンがある。表現の根本でもある地下の「根」は、幼い頃からの経験や成長過程での興味や疑問など、たくさんの方向に底力として伸びて、表現を複雑化させて支える。普段の生活ではマイナスに感じている自分のコンプレックスも地下の「根」として考えると、それが深いほど表現の強さの一つの要素であることがわかる。その「根」を地上に持ち上げて、たくさんの「葉や枝」と「花や実」をつける支柱となるのが「幹」。その「幹」は、発想力や技術力かもしれない。発想力と技術力のどちらかだけでは、良い木が地上に伸びていくことはできない。(例えば、発想力が弱く技術力だけを強くつけていくと職人的にはなれたとしても、やはり発想力や柔軟性がなければ色々な仕事に対応できない)。「根」を自分の日常や自分自身と向き合いインプットする場所だと考えると、逆に出会った人や他者からのコミュニケーションを通してインプットする力は「葉や枝」に例えられるのではないか。

花や実 は 他人に届く表現や仕事

葉や枝 は 人との関係やコミュニケーション

幹 は 発想力や技術

根 は 社会や日常や人や作品などへの好奇心やギモンや観察や知識や思考など

①の木は 興味関心が 中層な人間的関係と 広い「文化人タイプ」?

②の木は 逆に 専門性が 技術力が 高い「職人タイプ」かもいえる...

昔は... ②の木みたいに 「一生の仕事」を 太く真直ぐにのびて イメージが 強かった?

今は ①の木のように 社会の変動が 早いから 色々な仕事で 活躍する文化に 幅広さや柔軟性 が必要?

ただし 発想 = 柔軟性 技術 = 筋力 努力... 筋トレとストレッチ

根は ほど大きく育たないが 幹がうまく成長しないと たくさん実が葉が つまみにくい...

よくあるパターンは... 根の中で 知識ばかりを つめこんで 幹の中で 技術ばかりを つめこんで いくと... ③④の 木に ちがいは?

小学生や中学生は、 技術より 発想力 知識より 好奇心 探究心 が必要ではないか。

幹は成長しているが 根がのびていない...

これは! 新美塾!

表現制作 サイクル: 日常からの発見(キモ!) → 調べる/学ぶ/考える → 発想に作る → 人に見せるアウトプット

この本は アーティストを特別視している。でも表現はもともと特別ではない。『13歳のアート思考』の序盤の「アートという植物」というページに 共感して、強いキモを感じたので自分なりに木に例えて 表現という木 を描いてみた。植物

普通、美術の塾というと「画塾」のように絵を上手にするトレーニングをする場所を思い浮かべる。もちろん、デッサンや絵を描く行為から学ぶことは非常に多い。ただ、新美塾!では中高生を対象としているので、より新しい「根」を増やすこと、さらに「新しい美術の塾」という現代美術的な塾であるのなら一定のメディアを学ぶのではなく、横断的にメディアを扱える「幹」の部分の発想力や柔軟性を伸ばすことを重視しようと考えた。

(下道)



塾長ノートより



TIMELINE

全体の流れと 複数のメディアの設計

6 Jun.

7 Jul.

8 Aug.

9 Sep.

10 Oct.

11 Nov.

12 Dec.

集会

オンラインで集まり発表し話し合う会と、実際にどこかの街に集合して体験するオフ会との2種類の集会在り混ざり合う。

6月26日

新美塾01 《第1回オフ会》
『六本木だよ全員集合!』
国立新美の裏側を冒険。

7月11日

新美塾02 オンライン講義
『ミッション#01について』

7月25日

新美塾03 オンライン講義
『ミッション#02について』

8月7日

新美塾04 《第2回オフ会》
『清瀬だよ全員集合!』
企画展「生活のデザイン」
in 国立ハンセン病資料館

8月22日

新美塾05 オンライン講義
『ミッション#03について』

9月4日

新美塾06 《第3回オフ会》
『桜新町・渋谷だよ
全員集合!』
現代美術作家風間サチコさんスタジオ
ピジット。長谷川町子記念館・美術館in
桜新町。企画展「装いの力ー異性装の
日本史」in松濤美術館

9月19日

新美塾07 オンライン講義
『ミッション#05について』

10月3日

新美塾08 オンライン講義
『ミッション#06について』

10月24日

新美塾09 オンライン講義
『ミッション#07について』

11月6日

新美塾10 《第4回オフ会》
『竹橋・新大久保だよ
全員集合!』
個展「大竹伸朗」in 東京国立近代美術館
ファッションデザイナー
山下陽光さんスタジオピジット。

11月21日

新美塾11 オンライン講義
『ミッション#08について』

12月11日

新美塾12 オンライン講義
『ミッション#09 について』

12月18日

卒業式 in 国立新美術館

ミッション

封筒に入った奇妙な通信教育キットが
月2回で自宅に届く!
日常や自分と向き合うアートの課題。
課題の成果に対してオンライン会が講評や
グループワークの場所。

6月29日

ミッション#01
『私の得意なこと』
映像でとって、LINEで送ってください。

7月11日

ミッション#02-1
『日常の定点観測』
カメラで毎日4枚づつ7日間、
写真を撮ってください。

7月23日

ミッション#02-2
『日常の定点観測』
再度カメラで毎日4枚づつ7日間、
写真を撮ってください。

8月10日

ミッション#03
『特にミッションなし!』
でも、いつもより「美味しいもの」を食
べて、いつもより「美味しいもの」につ
いて哲学してみよう。

8月25日

ミッション#04
『風間サチコを
徹底調査してください!』
現代美術作家風間サチコさんの制作現
場へ。会いに行く相手を下調べをして
おくことは最低限の礼儀です。

9月8日

ミッション#05
『自分で箸を作ってください』
身の回りで箸に使えるような素材を探し
て箸として加工する。完成したら使って
何かを食べてみてください。

9月21日

ミッション#06
『誰かに言いたくなるような
「嘘の噂」を考えて
誰かに試してみてください』
ミッション#06 別メニュー
『かまぼこの板で落ち葉を
模刻せよ』
かまぼこ板をスーパーで手に入れて、好
きな落ち葉を拾い、よく観察して模刻し
てください。

10月17日

ミッション#07
『命名してください』
何かモノを作る創造ではなくすでにあ
るものに名前を与えることは最もシン
ブルで難しい創造で表現です。

ミッション#07 別メニュー

『新しい納豆を
作ってください』
スーパーでいくつか食材を買って、納豆
菌を使って納豆化してみてください。

11月11日

ミッション#08
『ミッションを
作ってください』

11月29日

ミッション#09
(最後のミッション)
『死ぬまでにやりたいことを
100個書く!』By にこにー
『そらへんで座ろう!』
By のあ
『夢の中の世界観を作品に
してください』By えな
『人間図鑑』By ザッキー

12月18日

ミッション#10
『みっちー ありがとう』
By ユース全員

12月23日

ミッション#11
『この半年で見つけた目標や
思い付いたアイデアを
もう一度ノートに
書き留めておく!』

ラジオ

毎回一人がゲスト。
学校や日常の楽しかった
ことや悩みなどを話し、
音楽をかける。
13人のメンバーしか聞け
ない交換日記的ラジオ。
マイクロコミュニティ
メディア。

7月18日

新美塾ラジオ01
ゲスト:ザッキー

7月24日

新美塾ラジオ02
ゲスト:いっちゃん

7月30日

新美塾ラジオ03
ゲスト:りゅうじ

8月14日

新美塾ラジオ04
ゲスト:トミー

9月3日

新美塾ラジオ05
ゲスト:えな

9月10日

新美塾ラジオ06
ゲスト:にこにー

9月17日

新美塾ラジオ07
ゲスト:のあ

10月1日

新美塾ラジオ08
ゲスト:まりん

10月8日

新美塾ラジオ09
ゲスト:ゆら

10月15日

新美塾ラジオ10
ゲスト:かなた

10月29日

新美塾ラジオ11
ゲスト:ちよ

11月5日

新美塾ラジオ12
ゲスト:じゅんべい

11月13日

新美塾ラジオ13
ゲスト:ゆうげん
(全員終了!)

11月19日

新美塾ラジオ14
ゲスト:ザッキー

11月26日

新美塾ラジオ15
ゲスト:いっちゃん

12月6日

新美塾ラジオ16
ゲスト:にこにー

12月24日

新美塾ラジオ17
みっちー&
スタッフの振り返り

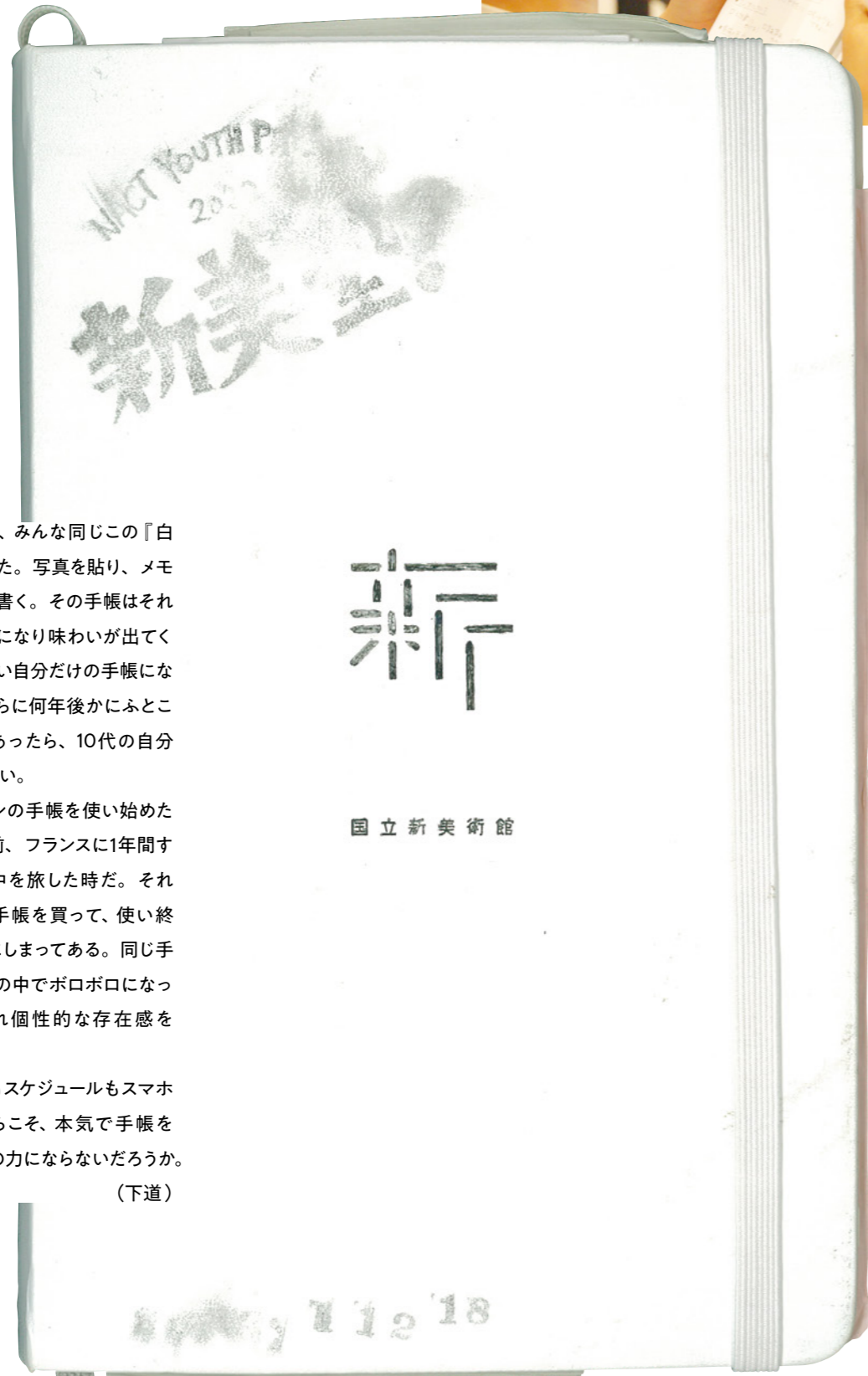
白手帳

好きに使える自分だけの
アナログの記録メディア。
日記帳でありスケッチブック。
オフ会時に塾長がチェック。

グループLINE

全員で日常的な
会話をするメディア。

白手帳



新美塾!の半年間、みんな同じこの『白手帳』を使うことにした。写真を貼り、メモして、スケジュールを書く。その手帳はそれぞれの形でボロボロになり味わいが出てくるだろう。捨てられない自分だけの手帳になるかもしれないし、さらに何年後かにふとこの手帳を開くことがあったら、10代の自分に出会えるかもしれない。

僕自身、モレスキンの手帳を使い始めたのは、もう10年以上前、フランスに1年間すみながらヨーロッパ中を旅した時だ。それ以来1年に1冊、同じ手帳を買って、使い終わったら保存箱の中にしまっている。同じ手帳が別の時間や空間の中でボロボロになって、箱の中でそれぞれ個性的な存在感を放っている。

近年、写真もメモもスケジュールもスマホに頼りがちだ。だからこそ、本気で手帳を使う経験は何か彼らの力にならないだろうか。

(下道)

新

国立新美術館

2022.12.18

『白手帳』は以前国立新美術館とモレスキンがコラボレーション企画した限定モデルで、少しだけ在庫が残っていたものを使うことができた。



ユースのノートより





2週間に1回、美術館から茶封筒に入った奇妙な通信教育キットが届く。開封すると、中には『ミッション』と呼んでいる宿題(時々ミッションに使う道具)と、下道塾長からのお便りが入っている。塾長からの指令であり宿題であるが、内容は学校の宿題とは異なる。ミッション1回目は《私の得意なこと(好きなこと)》をスマホで撮って送ってください》というもの。それぞれ5分程度の動画を自分の部屋や屋外で撮影。2週間後にオンラインで集合して、それぞれの映像や写真を見せて感想を言い合った。自分の同級生とは違って、それぞれが全く別の世界観を生きていることや別の表現に興味を持っていること、さらに自分自身も特別であることが浮かび上がる体験になった。ミッションは全10回(+1回)行われた。(下道)

ホキキ

ミッション = 重要な任務 (有教) 封印する非快感
メールで送る封筒

アイデア

- 尾行 ← ホリスティック・リソニック的?
- 同じ空間をいろいろある
- 何かついでのをかして下す。ちんぽをく?
- 木のえびをひるひしてはしをくして下す
- そのついでついでのをかして下す

「おまじない」 ← マスメディア

「台形」に行く。

時間
をあげる

新美塾 2021 11/11 12/1 2022 1/20 2/25 3/25 4/22~5/14 5/15 6/9 6/21 6/22 6/26

12/1 初MTG

1/20 MTG

2/25 MTG Youtube制作スタート

3/25 MTG 4/22~5/14 OL説明会 5/15 OL説明会

6/9 選考会

6/21 面接①

6/22 面接②

6/26 第1回OFF会

肉野的 ↓ 木 ↓ 下道海子

少しおじいさんを入れてみる。木のえびをひく

おまじないのついで、それを何かについでアイデア。

おまじないのついで、それを何かについでアイデア。

おまじないのついで、それを何かについでアイデア。

塾長ノートより



『ミッション』は塾のメインコンテンツ。参加者の部活動や勉強がどのくらい忙しいかなども聞きながら、2週に1回、塾長とスタッフが一緒に考えたミッションを郵送した。何かを作る課題ではなく、自分達の日常を別の角度から見ることに主眼を置いた課題にした。



NACT YOUTH PROJECT
2022

新美塾!

ミッション #01

メンバー同士が互いに知らないの?
まずはここから!

ミッション #01

『私の得意なこと』
を映像でとって、LINE で送ってください。

料理を作った動画
好きなパンを紹介する動画
空き時間で工作する動画
1-1に糸を縫う動画
"ほいなど"....

- ・ミッチーやメンバーに見せるだけなので、新美塾に応募した時の感じで良い。もう少しわかりやすく話してみたり、内容を充実させてみよう。
- ・スマホでとって LINE で送る
- ・動画の長さは LINE で送れる5分以内。しかし、もう5分とって2本を送ってくても良い。
- ・1発撮りでも、編集しても良い。
- ・話すだけでなく、実際のものなども見せてもわかりやすくなる。
- ・締め切りは7月6日。早めに撮って送っても良い。

国立新美術館のロゴマーク入りモレスキンのノート

お便り 2022年6月号

第一回のオフ会が終わりました。美術館の裏側を探検しました。楽しかったですか? 美術館で働く学芸員の仕事に少し触れ、美術館の目に見える部分だけではなく、その裏側を感じる散歩でしたね。みんなの手元には「白い手帳」があると思います。この手帳は長い歴史があって、あのピカソやゴッホも愛用していた物。僕も10年以上、この手帳を使っています。すごくしっかりしているし使いやすいので、おすすめです。今はなんでもスマホでできてしまう時代で、メモもスケジュールもアドレス帳もアイデアもクショも複写も全てスマホ。でも、新美塾では、少しアナログの感覚も大切にしたいなあと考えているので、新美塾の半年間だけ、この「白い手帳」をオフラインの「紙スマホ」だと思って、どんどん使って(書いたり貼ったり)自分だけの物にしてください。きっと何かの力になるはず。まずは、このミッションの用紙も毎回折りたたんで貼ってみよう。チケットやレシート切り抜きを貼ってみたり、アイデアを描いたり、生き物や風景や何かをスケッチをしてみたり、日記を描いてみたり、スケジュールを描いたりして、半年で使い切る気持ちで使いましょ。そして、オフ会の時には持ってきて、ミッチーに見せてください。

・ミッチーの手帳 01 紹介動画

・ミッチーおすすめ HP 「大竹伸朗のスクラップブック」



11月6日のオフ会で、大竹伸朗展に行き
本物のスクラップブックを見ました。

ちゃんと撮れているのか
わからなくてゴメン...
by やうずん

いつもの日常と違ってたことも、
皆に見せるとなると、常にアンテナをはるようになったので
日常がふもしろくなった。 by えり

ミッション #02

『日常の定点観測』

カメラで毎日4枚ずつ7日間、写真を撮ってください。

何が撮れているのか
わからないので、写真と
あける時、宝箱をあける
かたいたった by ちよ

風景以外、
全部真暗だった...
by のあ
2本目のカメラに
挑戦だ!

家族や友人との
親密さとの
めんどろや伝わりさ

- ・ミッションを開封したら、次の日からすぐに、送られてきたカメラで撮影を始めること。
- ・4枚のうち、1枚目は「毎日同じ人物」を2枚目は「毎日同じ風景」を撮ってください。あとの2枚は自由に撮って良いです。同じ人物や風景をできない日はほかを写して良い。
- ・「人物」は家族や友人。「風景」は、部屋の窓から見える風景や近所や学校など、選んでください。
- ・【定点観測(ていてんかんそく)】とは= 特定の場所から動かずに、あるいは場所を限定して物事を観察したり記録したりすること。
- ・撮影された写真は新美塾内でのみ共有するので、家族や友人をこっそり撮影するのもありだと思います。怒られない範囲で挑戦してみてください。
- ・なるべくカメラはバックに入れて常に持ち歩くこと。(ふとした瞬間に撮れます。)
- ・7日間の撮影が終了したら、すぐにカメラを返信用封筒に入れて送り返してください。こちらですぐに現像して、また送り返します。
- ・youtubeにあったカメラの使い方動画を参考まで。→→→

35ミリフィルムの
インスタントカメラ!!



お便り 2022年7月号

さて、ミッション#01『私の得意なこと』はどうでしたか? 『私の好きなこと』だったかもしれませんね。普段は友人にも共有しない自分の好きなことを、少しプレゼン(告白)してみる体験だったと思います。さらに、自分以外の映像を見ながら、どう感じましたか? 「みんなめっちゃくちゃ変なことが好きなんだなあ。自分が得意なことは全然違って、みんなバラバラだなあ」とか「自分が今まで興味のなかったことを楽しそうに話されるは見ておもしろいなあ」と僕は感じました。みんなが通う中学校や高校は、基本的にはみんなが同じ授業を受けて、基本的にはそれに点数がつきます。競争することも興味のない教科を勉強することも結構重要なことだと僕は思います。でも、大人数で学ぶ学校のスタイルは、それぞれの個性や教科にない事を伸ばすことは得意ではない。だから、自分の好きなことをガンガンに伸ばすのは自分でやるしかない。でも、学校の宿題とかに追われてしまう...僕は、学生の頃、教科で言うと「歴史」や「地理」と「美術」が好きだった。でも自分で古墳や遺跡をよく見に行ったり、絵を描く教室にも通っていた。だからか今、古いことを調べて作品を作る芸術家になったのかもしれない。そういう、好きなことがいくつか組み合わさって、その人だけの将来の仕事になる可能性は高いから、好きなことを自分で深めていきましょう!

・『現代美術家トム・サックスのI.S.R.U.』
新美塾! 『ミッション#01』が参考にしてた YOUTUBE コンテンツ。トムが毎回テーマを出してメンバーが自撮りでそのミッションに答える。リンクは第3回の「プリコラージュ=寄せ集めて自分で作ったもの」で、メンバーがそれぞれ紹介。日本語字幕もあるよ。

・ミッチーの手帳の作り方 02
前回到続き、自分だけの手帳を作る参考として。



ミッション #02-2

再度35ミリフィルムの
インスタントカメラを
送りました

『日常の定点観測』

カメラで毎日4枚ずつ7日間、写真を撮ってください。
1本目でつかんだ感覚を生かして2本目、もう一週間。

1本目で上手く撮れなかった人は
再チャレンジ!!

- ・ミッションを開封したら、その日の次の日からすぐに、送られてきたカメラで撮影を始めること。
- ・1本目と同じ人物や風景を取る必要はない。同じでも良い。
- ・4枚のうち、1枚目は「毎日同じ人物」を2枚目は「毎日同じ風景」を撮ってください。あとの2枚は自由に撮って良いです。同じ人物や風景をできない日はほかを写して良い。
- ・月曜日のオンラインでみなさんの写真を見たりみっちゃんから少しコメントがあると思います。それに従って少し先に進みましょう。
- ・1本目でできたことできなかったことやつかんだことをさらに生かして2本目に挑戦してみよう。

お便り 2022年7月後半号

さて、ミッション#02『日常の定点観測』はどうでしたか? 急にフィルムカメラカメラが送られてきてびっくりしましたか? それとも使ったことがありましたか? フィルムカメラの面白いところは、すぐに画像が見れないところかもしれません。タイムカプセルのよう。二十年后に開封するタイムカプセルではなく、二週間後に開封するタイムカプセルのような。さらに、フィルムカメラには撮った瞬間に「いいのが撮れたかも!」って"手応え"があると、いい写真が写っていることが多い。この課題でやってみたかったのは、日常はあなただけのものだということをもう一度認識することです。家族と一緒にいる時間や空間も、友人と一緒にいる時間や空間も、あなたがみている風景はあなたにしか見えていない、あなただけのものなのです。で、その"見方"や"眼差し"があなたの日常を作っています。昔、ある友人が「カメラはソナーみたいだ」と話していました。ソナーというのは潜水艦などの窓がない乗り物で音を発してそれが何かにぶつかって跳ね返ってくることでその相手との距離や存在を把握する装置。カメラによって人や日常を撮ると、その行為や写真によって、その眼差しが跳ね返ってきて、あなた自身がぼんやりと見ていた風景が少し輪郭を帯びてきたり、その人との距離が見えてきたりするかもしれません。カメラは人にうらやましがられる自慢の写真を撮るためにあるのではなく、自分自身を浮き彫りにして発見するアイテムでもあるのだと僕は思います。2本目も楽しんでくださいね。

・映画『SMOKE スモーク』
ミッチーが高校生の時にみて、今でも思い出す作品。今回の定点観測のミッションのイメージはこの映画からきています。原作のポールオースターも面白いですよ。映画は有料ですが、よければ、一人でも家族とでもみてみてください。

・『ははのふた』下道基行
みっちゃん作品の一つ。定点観測の作品。



ミッション#02 『日常の定点観測』

カメラで毎日4枚づつ7日間、写真を撮ってください。

ユースのノートより



1985年(開校時)に書かれたものです。



タコ焼き ウォーター
たこ焼き

ミッション #03

バイト代で食べた
テリヤキバーガー セット

都活帰りに
みんなと食べる
お菓子

『特にミッションなし!』

でも、いつもより「美味しいもの」を食べて、
いつもより「美味しいもの」について哲学してみよう。

- ・つまり、今回は、ミッション #03 は夏を楽しむということです。
- ・ミッションを理由にして、ぜひ、美味しいものを食べてみてほしい。なぜなら食べ物は生きるために不可欠で奥深いクリエイティブな存在なので。
- ・毎日「美味しいもの」を食べるのは贅沢かもしれません。親に無理をいうのはやめましょう。可能な範囲で実行すること。
- ・値段の安い高いは関係ないと思います。食べるシチュエーション/環境も考えましょう。
- ・一応、8/22のオンライン会でみんなの「一番美味しかったもの」をそれぞれ紹介してください。
- ・まりんはこの機会にカリカリへの探求を深めて、ノートに写真や絵を使ってメモしてください。
- ・ゆうげんは自分で料理したり、どこかへレストランに連れてってもらってください。可能なら。
- ・他のメンバーも、自分で食べたいものを作ってみたり、「美味いってなんだ?」と哲学してみてください。あと、白い手帳に何かを貼ったり書いてみてください。

誰と食べる?
どこで食べる?

ちよとあこがれのフレンチへ連れて
いってもらったゆうげん。後で同じ
メニューを再現しようとして失敗。

ちゃんもどいて
おにありました。

お便り 2022年8月号

さてさて、「1時だよ! 清瀬だよ! 全員集合!」。いかがでしたか? 東京にこんな場所があったなんて...、僕も最近まで知りませんでした。東村山近辺の清瀬駅集合駅でしたが、なんと綾瀬駅に行ってしまった人がいました! 荒川渡って東に行ったかーい! さて、今回行ったのは企画展示『生活のデザイン』というデザインを扱った展覧会でした。ただ、その展示会場は国立ハンセン病資料館。資料館自体は少し修学旅行や道徳などで学校で行くような空気感の場所(負の歴史や人権や差別について歴史を学び考える場)でしたね。でも、僕がみんなを連れていきたかった理由は、「デザインや道具のあり方を考えるきっかけ」になるかなあと思ったから。原始人が石で道具を作った以来、どのくらいの時間が過ぎたのかわかりませんが、スマホやリニアやドローンや...、世の中にはさまざまなデザインや道具に溢れています。世界と隔離されてしまった病院内で必要に応じて作られた一つの道具やデザイン、そういう物たちは、アートのオブジェとは違いますが、語りかけてきます。他にもここじゃなくて博物館や美術館のアートと出会うことも考えました。でも、今回は僕も初めて行く場所にみんなと一緒に行くかなあと思いました。今回残念ながら参加できなかった人も今月末まで展示は開催中なので行ってみてください。

映画「あん」

美味しいどら焼き屋のお話。と思いきや。ロケ地は東村山のような。
ハンセン病の人が出てきます。山際さんオススメの映画。有料ですが、もしよければ。
他にも「もののけ姫」にもハンセン病の方が登場していますね。では。



勝手な提案

「夏休みや休日に、直島(香川県)に遊びにきませんか?」

ちよと瀬戸内国際芸術祭 2022
の夏会期が開催されていました。

家族で、夏休みや休日にどこかへ旅行に行く予定があれば、
"アートの島" 直島に来てみませんか?
実は、塾長のミッチーが今、島に家族で移住して新しい展示もしています。
もし、8月8日以降で秋くらいまでで、予定が立てられそうなら、教えてください。
ミッチーも予定が合えば少しは島や展示を案内できるかもしれません。
この提案は、「新美塾!」の企画ではなく、ミッチー個人からの提案ですので、
全て費用や責任は自分でお願いします。(つまり国立新美術館とは一切関係のない提案です。)

もし、興味があれば、僕ができる限り、対応します。
この紙を見せて、家族と相談してみてください。(無理はしないでね。)

下道基行

ミッチーから皆へ
個人的なお便り。
ミッションでは「ない」。

連絡先: onkochisin1214@gmail.com (ミッチー個人メール)

下道による直島紹介動画。



6人が家族や友達と一緒に
直島を訪れたそうです!

アーティストのスタジオビジットは
皆が最もテンション上がる
新美塾の オフ会。

その前に……

ミッション #04

『風間サチコを徹底調査してください!』

現代美術作家風間サチコさんの制作現場を見せてもらいます。

会いに行く相手を下調べをしておくことは最低限の礼儀です。

なるべく複数の記事を検索し、多くの情報を下に風間サチコを調べてください。
さらに、「自分が彼女の作品の面白いと思う部分」と「自分に参考にしてみたい。
聞いてみたいこと」を言葉にして、絶対に各一つ以上質問を用意してください。

大人っぽいそれっぽい質問ではなく、

何でもいいので自分だけの興味や質問をぶつけてみましょう。

- ・風間さんを選んだ理由はズバリ。今ではスマホで表現をすれば人も少なくない映像や新しい素材を扱う作家が多い中で、木版画という手法は電気も通わない場所でも誰でも簡単にできる表現であること。そういうシンプルで当たり前の技術を自分だけの表現にしていること。さらに、日本独自の文化である「アニメ」「漫画」の影響も表現に強く現れていて、それが幼い頃や思春期からの社会に対する疑問や怒りを表現に繋がっていて、新美塾メンバーにも響くのではないか? と考えたからです。
- ・多分今後、自分が会いたいアーティストや作家や先輩に会う機会やインタビューなどをする機会があるかもしれません。大好きな料理人、大好きなアニメーターや監督、音楽家などなど。みっちーも大学生以来、会いたい作家さんや会いたい人に連絡して会いにいきました。今回は塾長がぜひみんなに会わせてみたいアーティストをお願いしましたが、自分だけの意見や質問を考えてください。そのためには相手をちゃんと下調べする必要があります。
- ・よくやってしまう質問は「〇〇さんはどんな作品を作っているのですか?」という調べたら分かることを本人に聞くことです。聞かれた方はやる気をなくします。僕の聞き方の例としては「〇〇さんの作品はここがすごい!」と思いましたが、では、なぜこの部分はこうしているのですか?あと、そこはどう考えて作っているのでしょうか?」というような流れかもしれません。参考まで。
- ・みんな全員が、同じ作家さんの作品を好きになるということはないし、新美塾のメンバーはバラバラの興味を持っているのが特徴なので、自分なりに聞いてみたいことを考えてみてください。

- ・これは作品がみやすいです。風間さんが個展会場で案内している動画。
これ以上に検索してくださいね。



お便り 2022年8月号②

さて、前回のミッション#03は、夏休みに美味しいものを食べる、という内容でしたが、いかがだったでしょうか?
トミーはあえて「南国のフルーツを片っ端から食べてみる」というのをやっていて面白かったですね。将来、南国フルーツ
研究家にはならないと思いますが、この調子で「果物と野菜の境界線」への冒険を続けたら本が一冊かけるかもしれません。
でも、どちらにしてもいつか、この「無駄なような調査」が生かされる日がくると思います。ちょうどその頃、徳島のど
こかで、バイト先でスタッフがテリヤキバーガーをセットで注文して食べているのが、実は塾の課題であるとは周囲の誰も
気がつかないでしょうね。笑
憧れのレストランのコース料理にギンギンのゆうげん(真似して作ってみるのが素晴らしい!)、ちょうどその頃、どこか
の山の上でグミマニアの友人おすすめのグミを食べるりゅうじ。全然カリカリのものを食べていないまりん。ま、みんな、ミッ
ションなしの夏休みを忙しく生活してそれで何よりです。

8/22のオンライン会では、食べ物のお話の他に、みんなが撮った写真をノートに貼りました。ミッション#02 日常の定点観
測も終わりましたね。どうでしたか?
まもなく新美塾も3ヶ月、「新美塾って何にも教えてくれない?作っていない?」って疑問がわいてる人がいるような気が
します。このミッション#02は、写真ワークショップとしてもっと課題や経験ができるはずなのに、撮って少しノートに少
しはっておしまいでした。みんなは表現や何かを作るのが大好きで、みんなももっとうまく作りたい、技術や知識を学びたい
という向上心もある。そして、「習い事」「ワークショップ」というのは一つの技術を習得してより上手になる中での経験を
するイメージがあると思うので。新美塾は何もやっていないような気がしますか? でも、それは意識的に深く専門的な領
域に行かないようにしてるんですよ。
これはある意味ネタバレ何だけど、もやもやしてる子もいるだろうから、今日は、僕がみんなと何がしたいのかを少しだけ
書きますね。

僕は一応、美術や写真を専門にして仕事をしてきました。現役のプレーヤーとして、誰かに美術や写真を教えるということ
に興味がないかもしれません。今回、みんなに写真をとってもらったから写真の取り方をレクチャーし教えることもできな
くないし、写真のまとめ方を教えることも可能かもしれないけど、あえてしなかった。
なぜなら、僕の仕事をしている世界で、「絵や写真の上手い人」「工作の上手い人」を本当にたくさん知っているし、そうい
う中で競争して生き残った人々も見てきたけど、逆にそういう人でもあきらめてしまう「狭い世界」であることも知ってい
ます。そこで感じるのは、技術よりも大切なのは、幼い頃や思春期に、たくさん興味や関心や感動や怒りやコンプレッ
スとかそういう種をたくさん植えて、たくさん自分の自分の疑問や発見をして、小さな失敗体験や成功体験をして、そうい
う自分だけの広くて深い経験や世界観の根を作っているか、ではないかと思っています。そういう自分だけの深い興味を持っ
ている人(つまり自分という世界と素直に向き合い続けている人)と、技術だけを向上させてきた人の違いはなんだろうと
考えると、自分だけの答えやアイデアを導き出せることにあるのではないかと思います。自分だけの根を生やした人は大人
になって社会に出た時、大工でもパン屋でもバスの運転手でも、どんな職業でも自分だけのクリエイティブな仕事ができる
し、最高だろうなあとと思っています。
例えるなら、、、根がないのに、大きな木をムキムキに伸ばそうとすると倒れてしまいます。新美塾の卒業生の中から、妙
な根をたくさん生やして、妙な木が成長して、誰も食べたことのない奇妙なフルーツをたわむに実らせてほしいなあ、と思
うんです。
新美塾では自分自身と向き合うこと、花を咲かせるのではなく種を植えることを、ベースにミッションを考えています。そ
の蓄積の見える形として白い手帳に書き込みをしておいて、いつか自分を見失いそうな時に振り返れるものになってほしい
と考えています。

こういう話をしていると思いつくのは、ある番組で、アニメーションの「美術担当(背景画担当)の才能」について宮崎
駿が質問されたときの答えです。

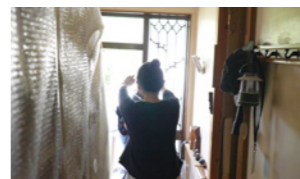
「例えば、(アニメーションの美術担当(背景画担当者))が、美しい夕焼けを描く、なんていう時に。(記憶の中に)自分が
どんな夕焼けを持っているかによって決まるんです。それは本当に面白いんですけど。持っていない人間はどっかのアニメ
ーションのような夕焼け描くんですよ。あるいは、テレビで見たような夕焼けを描くんですけど。自分が郷里で育って、郷里
で何度もその夕焼けをみてきた人間ってのは、特有の夕焼けを持っているんですよ。……だから一番ダメなのは、多分、
アニメーションが好きでずっとアニメーションの美術に憧れて、アニメーションの映画ばかりをずっとみてきた人が、一番
学んでいないんだと思うんですよ。」

多分、いろんな表現の生まれてくる根本の一つは、自分の他愛もない日常の中から。それをすごい表現にまで高めて花を咲
かせ身をつけるには経験や知識や技術が必要になります。僕にも全然できないけど。。。でも、新美塾に集まったみんなは、
まだ専門分野を絞っていない。だから、自分だけの「夕焼け」にふと足を止め、自分だけが持つ時間や風景を心に止める体
験を作りたいなあ僕は思って、ミッションを作っているんです。
なんつって。

2022.8.24 久しぶりの家出。車族。和歌山のホテルで、朝。

NHKスペシャル
「2000年への対話 第1回
日本人はいまどこにいるか
井野 謙 × 宮崎 駿」





2022年9月4日 新美塾 6. オフ会

● 風間サチコさんの制作現場を見せました!

様新町駅 13:00 集合

「レスリレピック」のプロセスや本物の作品を一部を紹介。
有様思えるなどいられる。

「ニュー松島」のプロセス、血字富や制作の過程

・空間をたどりおもしろい。風間さんの存在がいて

・自分の部屋をこんな感じにしたい! すごい

・生き様を見る! それだけじゃいい!

感じる!

子
自
法
と
創
作
と
考
想



各自で行う『ミッション』だけではなく、定期的にみんなで集合する。インターネット (Zoomなど) を使った《オンライン会》は『ミッション』をみんなで発表しあう会。さらに実際に街に出て、表現者に会いに行くなどの《オフライン会》もある。《オンライン会》は全8回 (1回 / 2週間)、《オフライン会》は全5回 (1回 / 1ヶ月) だ。募集の際には「1ヶ月に1回、美術館または東京のどこかで集合する場合に来られる人」としていたが、長野や徳島から集まった参加者の中には、夜行バスで《オフライン会》に参加する高校生もいた。

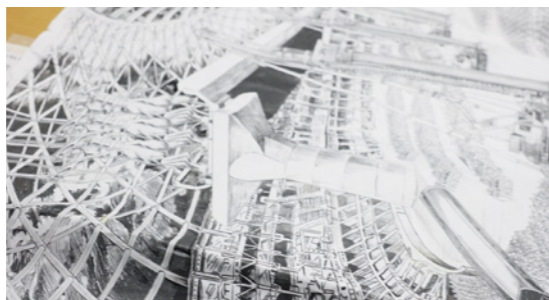
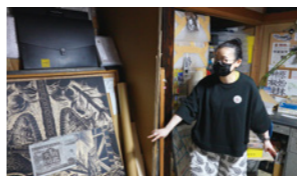
《オフライン会》は現地集合で毎回場所が変わる遠足 / フィールドワークみたいな会。スタジオビジットでは風間サチコさんや山下陽光さんの制作現場を見学させてもらった。(全ての内容についてはP10-11) (下道)

風間サチコ (かざまさちこ)

1972年東京都生まれ。「現在」起きている現象の根源を「過去」に探り、「未来」に垂れこむ暗雲を予兆させる黒い木版画を中心に制作する。ひとつの画面にさまざまなモチーフを構成した木版画は、漫画風でナンセンス、黒一色のみの単色でありながら濃淡を駆使した多彩な表現を試み、彫刻刀によるシャープな描線によって、きわどいテーマを巧みに表現している。国内外の展覧会に多数参加。http://kazamasachiko.com/



塾長ノートより





「途中でやめるの服をみんなと決めて着て、
新大の保の街に出る。服がある気持ちがある。」



2022年11月6日 新美塾!10 オフ会

竹橋おし子

新大の保だよ!! 全員集合ー!!!

7ヶ月間で
半分が休み...
残り半分の...

2022 11.1 [火]

2023 2.5 [日]

主催：東京国立近代美術館、日本テレビ放送網
協賛：株式会社ベネッセホールディングス、公益財団法人 福武財団
特別協力：TAKE NINAGAWA

開館時間：午前10時～午後5時（金・土曜日は午後8時まで）*入館は閉館の30分前まで
休館日：月曜日（ただし1月2日および1月9日は開館）、年末年始（12月28日～1月1日）、1月10日
*開催情報は変更になる場合があります。
*ご来館前に美術館ウェブサイトで開催日程等の最新情報をご確認ください。

Hours: Tue-Sun, 10:00 a.m. - 5:00 p.m.
(Fri and Sat until 8:00 p.m.)
Last admission 30 minutes before closing
Closed Mondays (except January 2 and 9),
December 28 - January 1, and January 10
Check the museum website for news and notices prior to your visit.

東京国立近代美術館
The National Museum of Modern Art, Tokyo

無料観覧券 / 非売品・転売不可 切り離し無効

山下陽光 (やましたひかる)

1977年長崎県生まれ。文化服装学院を卒業後、劇団員や借金取り、Tシャツのプリント工場勤務などを経て2004年に「途中でやめる」をスタートさせる。翌2005年には高円寺で古着屋「素人の乱」をオープンさせるが東日本大震災を機に店舗を畳み、長崎県に移住。2021年12月に再度上京し活動を続けている。

公式Instagram

<https://www.instagram.com/tochudeyameru/>



塾長ノートより



HERSHEY'S

箸 -ズ
by のあ.

ミッション #05

自分だけの箸

カッコいい箸

ずるい箸

みにくい箸

使いにくい箸

使いやすい箸

面白い箸

悲しい箸

はし
『自分で箸を作ってください』

- ①身の回りで箸に使いそうな素材を探す。
- ②箸として加工する。(しなくても良い)
- ③完成したら使って何かを食べてみてください。
- ④すぐに写真をとってグループLINE「新美術! 2022」にアップしてください。
- ⑤別の箸作りにも挑戦して、さらにグループLINE「新美術! 2022」にアップ。

ひもを水でぬらしておすべに凍らせた箸
by ゆう

- ・箸を作るミッションです。食べるものはなんでも良いです。
- ・植物の枝で箸を作って食べると食中毒を起こす危険性がありますので、ご注意ください。
- ・作ったら写真に撮って、みんなに共有してください。
- ・箸には自分で名前をつけてください。
- ・白い手帳に箸のアイデアや名前や使ってみた感想などを書いていってください。
- ・自分で食べるのも良いですが、家族や友人に使ってもらうのも良いですね。

ほんほんUP
されてました!!

のりでごほんをつかむ
のは箸か?

木の箸で
納豆を混ぜる
by とみ

お便り 2022年9月号

9月に入って急に涼しくなってきましたね。
さて、9月4日のオフ会「1時だよ! 桜新町だよ! 全員集合~!」は、いかがでしたか?
桜新町駅に集合して、アーティスト風間サチコさんの制作現場(家)におじゃまして、制作の秘密を見せてもらいました。風間さんが実際に見せてくれた巨大な版画は、数年前にニューヨーク近代美術館(MoMA)に收藏された作品の一部でした。MoMAに收藏されたということは現代美術の殿堂入りしたということなので、野球で例えるならイチローみたいな存在感です(少し違う気もしますが、)。その作家さんがこんな部屋で作品を作っているのかー!とみっちは興奮しました。パワフルでおどろおどろしい作品とは対照的に風間さんはすごくチャーミング。部屋には趣味の小物や本が無数に並んでいて、制作の傷跡が残る机など、カッコいい部屋/空間でした。みんなは何を感じたのでしょうか? 僕はメンバーの誰かが風間さんに「作品タイトルを無題にしてしまうのですが、どう思いますか?」と言う質問に「勿体無い! そんなの! 面白いタイトルは表現だからちゃんと挑戦して考えなきゃ!」と言うようなことを答えていて、突き刺さりました。その後、渋谷の「異性装」の展示へ。それぞれ白手帳にこの日のことを書いておいてね。
今回は、国立新美から最も遠い場所に住むメンバーのいっちゃんが高速バスに乗ってオフ会に参加してくれました。朝5時半新宿着、夜21時半新宿発! みっちゃんやスタッフは張り切りすぎて、美術館3ヶ所、制作現場訪問、渋谷で偶然的なギャラリー鑑賞など、詰め込みすぎて、みんなヘトヘトだったかと思えます。少し反省です。では、「ミッション#05」楽しみましょうー!

渋谷区立松濤美術館 企画展
「異性装の日本史」展のコト

余談

今回の「ミッション #05」の箸のアイデアを思い付いた時の話。
先日、深夜まで京都で友人とバーでダラダラと話した帰り道に、急に牛丼が食べたくなって、牛丼屋で牛丼をテイクアウトしました。そして、気持ち良い夜だから歩いて公園まで行って、いざ食べてみようとしたら、なんと箸が入っていない!!!
結局、僕らは熱々の牛丼を、公園に落ちていた木の枝を使って食べて見ました。案外イケたし、古代人になったような感覚でした。
翌日、家に帰りインスタを見ていると、友人のこんな投稿を発見。こっそり保管されていたようです。笑



ちなみに参考までに。

『食事に用いる道具で世界を区分してみると、手掴みで物を食べる手食文化圏(東南アジア・中近東・アフリカ)が44%とほぼ半分を占め、ナイフ・フォークを使用するカトラリー文化圏(ヨーロッパ・アメリカ・ロシア)が28%、お箸を使う箸食文化圏は(日本・中国・韓国・ベトナム・タイ・シンガポール)は世界の約28%と言われ、意外にも幅広く東アジア一帯に広がっています。
しかし、箸食文化圏とはいえ、箸と匙をセットで使うスタイルが大半であり、箸のみで食事をするスタイルは日本独自のものであると同時に、日本はただ一つの「完全箸食文化圏」と言えます。インディカ米などとは異なり、粘り気のある日本米を食べるのに向いているからではないかと言われています。
さらに、「自分だけの箸」を決めて食事をするというのも日本だけの風習であり、他の箸食文化の国々には見られないスタイルです。』(インターネットより)

表現におけるフィクション(嘘)

フィクションは嘘をいって

ミッション #06

電化製品に浸せたら
お米に入るとなるらしいよ

人によって「嘘」についての
感覚に違いがあって
おもしろい。

『誰かに言いたくなるような
^{うそ うわさ}
「嘘の噂」を考えて、
誰かに話してみてください。』

散髪した髪は集められて
カケダの原生杯に行くらしいよ

「海水に砂糖と少しだけお酢入れたら水になるらしいよ」とか……
信じちゃって話したくなる「嘘の噂」を学校や家庭で
話してみてください。

その話した内容と反応を全てノートに記録してください

- ・「島にもう一つコンビニファミマができるらしいよ」と子供と作った嘘を流してみました。噂になりました。
- ・今回は、メンバーも塾長もスタッフもみんながそれぞれ行きます。
- ・これは、イタズラのようなもの。でも、人を傷つけたり、危険性があることはやめましょう。
- ・うまくいかない時も全て、ノートに記録しましょう。
- ・次のオン会で発表します。

車のセルと
ブレーキをぶくと
スリッパの音が
するよ

お便り 2022年9月号

さてさて、ミッション05の箸を作ってみようはどうでしたか？僕はユウゲンのシンプルだけど描らぎのある自分だけの箸、好きです。漆や自然系ニス表面に塗って使ったり保管してください。あと、ユラのヒモを凍らせる箸、すごく面白い。柔らかい細い素材を固くして使う思考はセンスを感じます。イチャンの何か悪夢に出てきそうなインパクト。淳平の新しい箸のアイデア。。と、面白かったですね。このミッションでは、本当はじっくりと素材を探して木や竹を削って自分の箸を作ってみて欲しかったのですが、時間が無い子もいるだろうからアイデア1発でクリアできるもう一つの方向も作っておきました。答えは無数です。今回は「当たり前に使っている道具を疑って、自分でゼロから考えて作ってみる。」というのをやってみたかったです。清瀬の「生活のデザイン」展でハンセン病の患者さんが自分の手に合わせて作られたスプーンのように、世界に一つの箸をね。あと、人が驚く表現を作る方法で重要な要素として、「出会ったことのない素材や歴史や文脈をぶつけて化学反応を起こす」というのがあります。例えば、料理でも思いもよらない食材を使うことで、食べた人に驚きが発生するように。

次のミッション06は嘘(うそ)と噂(うわさ)です。嘘についてはいけないと言われてきたと思いますが、現実にはない物事を想像して他人に本当のように思わせる、という意味ではフィクションを作る原点ではないでしょうか？さらに噂になる、というのはバズること、流行らせること。これも表現でも重要な要素です。フェイクニュースも拡散するし、ついていけない嘘はあると思います。今回は嘘について、噂について考えて、実行してみてください。本当に噂になった時に、馬鹿馬鹿しすぎて笑えるやつが良いですね。

このミッションはテスト勉強や部活動などが忙しい中でもできるように考えました。にこに一の提案やアイデアを元に考えました。ありがとう！では、みんなで楽しみましょう！

犬の涙は蛙よけになるよ、とか考えたけど
結局できなかった…。嘘と冗談の違いは何？

ミッション #06 別メニュー

『かまぼこの板で落ち葉を模刻せよ』

模刻というのは「元になるものとそっくりに彫刻すること」。
かまぼこ板をスーパーで手に入れて、
好きな落ち葉を拾い、よく観察して模刻してください。
対象物は落ち葉ではなく、他の物でも良いです。

※みんなテストとか文化祭で忙しい時期なので、
もう一つ別のやりやすい公式なミッションを出します。
このミッションは、やりたい人だけやってみてください。
糸鋸(いとのこ)や彫刻刀などの道具が必要です。
やってみたいけど道具を持っていないという人は、
LINEで教えてください。糸鋸と彫刻刀は郵送します(1週間かかります)。
すでに持っている人は、自分の道具でやってください。

ここがポイントね。

- ・みんながこのミッションを行う必要はない。道具も危険だし、簡単ではないので、興味のある人だけチャレンジしてみてください。はっきり言って結構難しいですが、とても面白いです。
- ・落ち葉以外に枝や石などの自然物がおすすめですが、そのほかの人工物でも良いと思います。
- ・かまぼこ板は色々な種類があります。模刻したいものが大きければ2-3枚を木工用ボンドでくっつけても良いです。でも、なるべく大きめな板を探して1枚ですべてのものを探そうが良いかも
- ・かまぼこも美味しく食べてください。
- ・プロセスを録画して早く動画を作っても面白そう！
- ・作り方の動画は、みっちーが動画をあげます。
- ・完成の発表は、次のオンライン会(10/3)にしておきます。

【やり方】

- ①かまぼこを買いに行く。
- ②かまぼこを食べて、板だけを綺麗にする。
- ③模刻する対象を探す。※なるべく等倍で模刻できるものを探す。枯葉がおすすめ
- ④まず、鉛筆で板にアウトラインをかいてみます。
- ⑤それにそって、糸鋸で大きくくいらぬ部分を切り落とします。
- ⑥大まかに切り落とされたら、大きめなカッターなどで形を整えていきます。
- ⑦細部は彫刻刀で彫っていきます。必要ならルーターなどの他の道具も使えるかもしれません。
- ⑧紙やすりで整えていきます

※カッターや彫刻刀を使用します。大変に危険なので、本当に注意してください。さらに無理はしないでください！



新美塾ラジオ!とは.....

- 13人が回けるラジオ
だから、Youtubeから好きな音楽をかけれる。
普段は聞けないことを聞ける。
- ジングルセレクトもみんなで作って。
みんなで作るオリジナルのメディア。
- 毎回、ゲストとして、メンバーが出演。
自分の学校や部活や悩みなどを
語る。聞く。
- メディアとしては、発信するイメージで
なく、「交換日記」のようなラジオ
- Youtubeではなく音声データをそのまま
LINEで送る。このほうが、好きな時に
ダウンロードして、好きな時に何回も聞ける。
- 週1ではじめ、もう少しペースを上げて、
3ヶ月で全員。その後は、メンバーに任せ。



収録① 7/17

ラジオ#01 [ゲスト] サッキー

ラジオ#02 [ゲスト] いっちせん

収録② 7/25

ラジオ#03 [ゲスト] リゅうじ

ラジオ#04 [ゲスト] (ちゃん)

#05 [ゲスト] 丸ちゃん

収録③

ラジオ #06 [ゲスト] にこにこ

#07 [ゲスト] のお

そこ ↓ からの...

LINEや
Twitterや
WhatsApp
で送るのよさ
.....

深夜の
新美塾
ラジオ

- 新美塾ラジオの団に
入る下道のラジオ
- 塾長がタラタラ話す。
- 水曜日
- おい曲をかける
- 大人なゲスト
スタッフ?
- ビールでものwていいかも?

アイデア

新美塾が作りたかったのは 特別な日ではなく
日常が特別な体験にすること。

アイデア

- 「アリス」な感じで
を「アリス」に
かえてみる感じでいい
気がする。

週1回配信。下道塾長と美術館スタッフの山際がMCを担当し、毎回1名の参加者がゲスト出演して、学校でのことや新美塾!のこと、さらにみんなに聞いてほしいお気に入りの音楽を流すラジオ。配信はグループLINEのみ。つまり参加者だけで共有されるラジオ。新美塾!のコンテンツは、各自で行う『ミッション』、みんなで顔を合わせる『集会』、書き留める『白手帳』。これで、表現の塾の要素は一通り完成しスタートしたが、すぐに何か足りないことに気がついた。それは、コロナ禍で『集会』がZoomを使うオンラインがメインになり、実際にみんなで集まっても、参加者同士が横に繋がり関係性を生む空間 / 装置が足りていないことだった。そこで、参加者間をめぐる交換日記のようなものを検討したが、個人情報の取り扱いの問題もあり、最終的に「ラジオ」の形態をとることになった。

ラジオMCも参加者が行い、参加者同士で会話するメディアにまではならなかったが、それぞれのことを知り、次のオフライン会に繋いでいくきっかけにはなったようだ。そして何より、自分の時間で聴くラジオによって、新美塾!という仮想空間のメンバーである一体感を深めることになった。(下道)

塾長ノートより



まだ名前の無い現象

ミッション #07-1

『命名してください』

名前イメージが
変わる!!

何かモノを作る創造ではなく、
すでにあるものに名前を与えることは
最もシンプルで難しい創造で表現です。

みんなテスト勉強で忙しい時期だと思います。
普段使わない脳を使うテスト形式で作りました。
脳の息抜きに挑戦してみましょう!

【提出期限】 10月23日(日)の夜までにテスト用紙を写真に撮って真住さんにLINEで提出すること

お便り 2022年10月号

さてさて、ミッション#06「嘘の噂を作る」いかがだったでしょうか？ 簡単そうで楽しそうに見えて、やってみるとかなり難しかったですね。その後のオンライン会はとても興味深い会になりました。このミッションが得意な人とそうではない人がすごく視覚化されたことや、さらに、僕自身も嘘が得意ではないということに気付かされたこともありました。でも逆に、「今日の昼に12年ぶりの皆既月食が見えるらしいよ(?)」といううげんのついた嘘、それを信じて外に出て空を見上げた友人の姿を想像すると何か笑顔にさせる魅力があるなと思いました。嘘というのは時に人を傷つけてしまうから難しいけど、不思議な魅力を持っている。(そういえば、1980年代に日本で子供達にUFOブームを巻き起こした矢追純一さんという方がいましたが、彼がその嘘を問い詰められた時に「子供達に空を見上げて欲しかった」と苦し紛れに話していましたのをなぜか思い出しました…。) 自分の得意なことを知ること、それを伸ばすのは大切です。でも、それと同じくらい自分が苦手なことを知ることが大切。でも、それを知ることが辛いことかもしれませんし、実は苦手なことが急に得意になることもある。

今回のミッション#07は「命名」です。少し前に、娘が生まれた時、名前を決めるのに大いに悩みました。名前は一生残るものだし、その人のイメージを決める一つの要素だから。妻がアイデアをたくさん出していた名前の中から、僕は生まれた娘をみて瞬間的に「shu(しゅう)」と名付けました。漢字はなし。つまり、漢字の持つ意味はなしで、彼女のイメージを音で考えました。これが正解だったのかはまだわかりませんが、いつか彼女がその名前を気に入ってくれたら嬉しいです。

名前には、耳から感じる音や響きのイメージ、視覚的に字面からくる雰囲気やイメージ、そして漢字のもつそれぞれの言葉の意味が組み合わさってできています。昔の暴走族が「よろしく」を「夜露死苦」と書きました。馬鹿馬鹿しいですが、そこには画数の多い威圧感と世の中への不満が含まれていて、見事な詩的表現です。笑

すでにある名前じゃなく
新しく名前をつけてみる。

ミッション #07-1


科目:表現 担任:michi

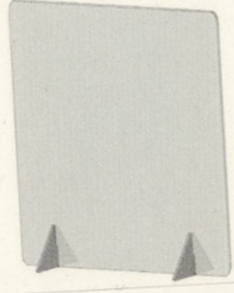
中学1-高校3 名前表現テスト

名前(もしくはあだ名)

名前をつける問いに答えなさい。

①これらの道具にぴったりの新しい名前をつけてください。

a  前髪クワシヤー 安心材料
医療鏡 ちょと失礼くん
(カキヒコ)

b  とこもイタ
面会板 のっぺらぼう
(嘆きの壁)

②以下の現象に名前をつけてください。



風をたす 反ズボラ
シメントリセッション
そもそもあり使えなくなった
(ペーパーの逆襲)

トイレにある空気を手を乾かす機械が使えなくなっている様子

③塾長は近所にアンドリューというアメリカ人の友人がいて、勝手に「安藤龍」という漢字を当てはめています。みんなも外国人の誰かやカタカナのモノの名前に漢字を当てて、イメージを変えてください。

名前	→	漢字で
マヌケ	→	増巻
アレクサ	→	熱冷苦茶
ジュア	→	アバー → 闇婆
ヤナ	→	カラ → 加目拉
ガブリエル	→	オンライン → 滝羅陰

納豆素という

納豆菌を皆に送りました。

ミッション #07-2

『自分で新しい^{なっとう}納豆を作ってみる』

スーパーでいくつか食材を買って、
納豆菌を使って納豆化してみてください。
食べてみた感想もお願いします。
納豆が食べられない人は誰かに食べさせてください。

- ①親から「新美塾!の宿題だから」とお金を少しもらって、スーパーに行く。
- ②まずは、豆も買う。そして別の豆やその他の食材を買ってみる。
- ③説明書を読んで、それぞれの食材に同封の納豆菌を使用する。
- ④待つ。
- ⑤食べてみる。食べさせてみる。感想をLINEで報告

【提出期限】 特になし。やってみたら、グループラインで報告してください。

忙しくて豆だけ買っておいたら
家族がいつのまにか作ってた!!
まいに!!

グループライン



みんなで日常的に会話するメディア。2週間単位で活動する『ミッション』や『集会』に対して、それぞれの日常をリアルタイムで繋ぐ。全員が接続可能なLINEを使用。個人的な話題や質問やスタッフからの報告など、さらに週1回のラジオもここで共有された。(下道)

みんなで作りたい
ミッションは？

ミッション #08

塾長 ミッチーに挑戦!!

『ミッションを考えてください!』

これまでのミッションを参考にしつつ、
自分でミッションを考えてください。
みんなにやってもらいたいミッション! とか
みんなでやりたいミッション! です。
次のオンラインでみんなを選んで
実際にみんなで作ってみましょう。
(それが最後のミッションになるかも)
テーマは「日常」「表現」です。

【重要】 11月20日(日)の夜までに用紙を書き、写真に撮って真住さんにLINEで提出すること。何枚でも良い。
翌日のオンライン会で発表したいと思います。(まずは匿名で書いてください。発表時に誰が作ったか聞きます。)
さらに、みんなで話し合っ、使用するミッションにしたいと考えています。

お便り 2022年11月号

さてさて、ミッション#07『名前をつける』は、いかがだったでしょうか? 前回の嘘のミッションと同様に簡単だけ
ど難しい課題でした。でも、その後のオンライン会はグループで命名作業を行い、とても楽しい会になりました。
みんなで考えると、自分の思い通りに行かない時はイライラしますが、うまくいくと自分ができる事を大きく超え
たモノができることがあります。それを少し感じられたし、良い機会になりました。
僕自身、作品を作るときにタイトルを考えるのがとても苦手で、友人たちの中にはそれが天才的に得意な人もい
ていつもうらやましく思っています。でも、自分にはないモノをおぎないながら、手探りで進んでいると、それがその
人の道になっていくことがある。みんなそれぞれ、得意なことや素晴らしい能力(金の鉱脈みたいな)がどこか
に絶対眠っているの、それを自分や他者から発見できて、自分の道ができるといいですね。

さらに、11月6日は、竹橋駅に集合。山際さんの職場でもある東京国立近代美術館で大竹伸朗さんの個展を見ま
した。大竹さんのパワーが美術館全体に溢れる展示は、まず頭ではなく心や体を解放して作品空間と向き合うよ
うな体験でした(昔、香港映画でブルースリーが「Don't think! Feel.(考えるな!感じろ。)」と言っていたが、まさに
)。その後は、新大久保に行ってコリアンタウンを徘徊。その街に住むファッションデザイナーの山下陽光さん
の自宅兼スタジオにお邪魔しました。古着を切り刻んでコレクションして一着の服を生み出す山下さんは目の前で
実際にミシンでの実演を見せてくれました。彼のお兄さんはパンクロックのミュージシャンなのですが、彼のミシ
ン姿もどこかロックを感じたの僕だけでしょうか…。(でも、みんなで行きたかったなあ…仕方ないけど…)さ
て、6月からはじまった新美塾!も大詰め。今回は、自分達でミッションを考えて、話し合っ、最後のミッションに
向かいます。(みっちゃんアイデアが思い浮かばないのではないですよー)では、楽しみましょう。

テストなど
忙しい時期
で、ちょっと
欠席者が
出てました。

ミッション #09

タイトル

『 』

内容

詳細・注意点など

【重要】 11月20日(日)の夜までにこの用紙を書き、写真に撮って真住さんにLINEで提出すること
翌日のオンライン会で発表したいと思います。(まずは匿名で書いてください。発表時に誰が作ったか聞きます。)
さらに、みんなで話し合っ、使用するミッションにしたいと考えています。

ミッション #09

『死ぬまでにやりたいことを100個書き出してみよう!』

By にこにー

小さな願望でも叶わないような大きな願望でもOK! できる限りかく!

【進め方】まずは15分くらい時間を見つけて、すぐにかけるだけ書いてみてください。その後はたまにそのページを開き書き加えてください。

『そこらへんで座ろう!』

By のあ

いつもは座らないいろんな場所に少しの時間座って数分ほっとしてください。

学校の行きや帰り道、家や近所。1日1カ所以上行動し記録してください。自分はどんな環境が落ち着くか? どんな雰囲気が好きか? 行動してみてください。

【進め方】まずは、学校の行き帰りに挑戦してみてください。

『夢の中の世界観を作品にしてください』

By えな

寝ている間に見た夢を忘れないうちにメモする。その世界観をどんな形でもいいので表現してください。

夢の内容の一部でも良いし、そこからインスピレーションを受けた表現でも良い。

【進め方】起きてすぐに忘れないようにすぐにメモできるように、手帳とペンを枕元に置いて寝ましょう。起きたらすぐにメモしましょう。その中から表現にできそうなものを時間のある時にさらに表現へ。

『人間図鑑』

By ザッキー

自分の身の回りにいる人々を観察して図鑑を作ってください。

その人の特技や性格など色々細かく項目を書いてください。

【進め方】まずは一人書いてみて、思いつくたびに進めましょう。

【重要】4つ全てのミッションを完璧にする必要はないですが、挑戦してみてください。
12月11日(日)のオンライン会で一人10分程度で発表してもらいます。

お便り 2022年12月号

さてさて、ミッション#08『ミッションを作る!』は、いかがだったでしょうか?
今までは塾長みっちーが考えたミッションをやってみる側だったのが、今回は逆にみんながミッションを考える課題でした。面白いアイデアがたくさん出ました。4つのミッションをやることに決めました。

「4つのミッションは忙しい毎日には多すぎる!?!」

いやいやいやいや、この1-2週間は日常のルーティーンにしてにして乗り切りましょう!

【やり方】は、まず寝る前に、枕元に白いノートとペンを置いて寝ます。起きたらすぐに「夢をメモ」しましょう。次に、学校やバイトの行きや帰りにいつもは気にも止めない「どこかに座って」みて、その感想をメモしましょう。授業中にやる気が出なかったり、ボーっとしている時、白いノートを出して、「死ぬまでにやりたい事」を妄想しながら書いてみましょう。さらに、時間を見つけて、身の回りの友人や家族の「人間図鑑」を作ってみよう!
……と、ということで、これが最後の新美塾!からのミッションになりそうですよ。たぶん。

いやあ、これまで半年、本当にお疲れ様でした。楽しかったかな?

色々やってきましたが、今回のミッションにもあるけど、「自分でやりたいことを自分で考えてやってみる」という当たり前のことは、結構難しい。なぜなら、みんなはまだ学校生活という環境に毎日縛られていて、先生が作ったテストや授業や親の作った習慣の中にいて、「与えられることに慣れている」から。今は「もっと自分勝手にやりたい!」と、先生や親と衝突することもあるかもしれない。でも、自分勝手に何をどのようにやれば良いかわからない……、そんな時期かもしれません。(そんな時、みっちー青年はよく同級生と河原で空に向かって歌ったり叫んでいました。スマホもネットとかもなかったしね。笑) でも、高校や大学を卒業すると、すぐに社会人(つまり大人)。そんな息苦しく感じた学校や家から出ることになる。卒業までを20年間と考えると、そのあとの60年とかもずっと長い時間はずっと自分で道を決めて一人で勝手に生きていかなくてはいけない。だから今は、その準備ができる悩める時間……、と考えられなくもない。自分で船を作って、大海原に一人で旅立つ時は目の前に迫っている。もう浜辺に立っている。今までは、親や大人の作った環境……つまり親の作った快適な大きな船に乗せてもらっていた生活から、大人になると、自分で小さな船を自分で作って、自分で方角を決めて、漕ぎ出す。一回一回、目標や目的地を決めて、旅を続ける。それは大変だけど、スリリングで楽しいはず。

まずは、自分一人が乗れるイカダや小舟を作る。それに乗って知らない町や国を旅する。徐々に、家族や後輩をたくさん乗せるように船は大きくなっていく。(みっちーは妻と娘と猫だけが乗れる小さなヨットで航海中です。)もしかすると、そういう船の作り方や操縦の仕方を学ぶのが大学や専門学校かもしれないね。(もちろん直接社会に出て学ぶこともできる。)

船の旅には大きな嵐もあるだろうけど、大きな恋愛もあるだろうし、世界は本当に美しいよ。

それを美しく感じる自分がいれば、絶対に大丈夫だから!

焦らなくても、いつでも何度でも大丈夫だよ。

未来も世界も私たちの手の中にあるし、無限に可能性をはらんでいるから。

では、一曲歌います。

メンバーよりミッチーへ 考えてくれました。

ミッション#10

『みっちー、ありがとう』

半年間。長いようであつという間でした。

「表現」とはなにか、

このテーマのもと、本当にたくさんの貴重な経験をさせてもらいました。

日常から得たクリエイティブの種を育てることの大切さ。

自分で考えて行動を起こすことの楽しさ。

世界は広くて自由だということ。

人生で大切なことをたくさん学びました。

私達はこれからそれぞれの人生の道を歩んでいきます。

その道にみっちーがいてくれたこと。

道の一端をこのメンバーで共有できたこと。

このかけがえのない経験は絶対に将来の私達の心の糧になります。

みんなで見っちーに感謝を伝えたい！

これが本当に最後の私達のミッションです！

ミッション#11

卒業式が終わって。

『この半年で見つけた目標や思い付いたアイデアを
もう一度ノートに書き留めておく！』

そして

この裏の「お便り 最終号」を
親にも読んでもらってください。
その渡すタイミングで良いので

『この半年の新美塾！の感想と感謝を
親に少しでも良いので話してください。』

半年間の新美塾!がようやく終わった。

その余韻のなかでこの経験が徐々に言葉に変換され始めている。ので書き留める。
でも、それをいくら言葉で誰かに説明しても、たぶんこれを体験した人にしか理解できない、ということを感じながら。この半年間、みんなの周りに奇妙な“空間”が確実にふわふわと存在したと言う実感を今、喪失感と共に強く気づきはじめています。

昨日、国立新美術館のワークショップルームで行われたささやかな卒業式で、12人一人一人の言葉や表情を見ながら、新美塾!は、やはり「学びの場」だったのだと再確認した。でも、今まで何度も経験した“ワークショップ”などの類とは全く違う、日常的で流動的で双方向な塾というか、かつての深夜ラジオがそうであったように、学校とも家族とも少し切り離されたもう一つの「居場所」というか。きつと、自分達で歪な「空間」を手作りで作ってしまったのだと思う。それは、近代から作られ整理整頓されてきた義務の学校生活や競争社会の学習塾でもないDIYの自由なホットテ小屋。それを国立の美術館に作ろうとしたのは正しかったのか? (笑) という疑問はあるけれど、実際に実践してみると、昨今流行し始めている(デザイン性に優れた)企業やお店などが行う中高生向けワークショップやフリースクールとも違う存在になったし、美術館の中に新しい表現の「学びの場」に向ける挑戦は、やはり美術館だから守られてきた(最近は削られつつある)自由や豊かさを、入館者何万人などでは測れない別の方向に流すような水脈作りというか……なんというか……)

隔週で届く変な通信教育とミッションをそれぞれの日常で取り組み、このコロナ禍で発達したオンラインの技術で集会を開きみんなで課題の成果を発表し混ぜ合わせ、実際に知らない街で待ち合わせをしてアーティストの家やスタジオを訪問したり、毎週一人づつゲストになり自分達だけが聞けないラジオ放送を作りながら。みんなで作り上げた場所はいびつで魅力的な形になった。確実に、見たことのない「空間」がここに生まれ、その中で僕やスタッフも含め参加者にそれぞれ学びが生まれていたと思う。

半年間の途中からは、中高生のみならず、やりたいことや疑問や意見がどんどん出てきて、毎回僕たちは驚きと共にそれらを受け止めて、カリキュラムをどんどん脱線し変更していった。最後に卒業式が終わって、山際さんと話して出てきた言葉は「新美塾!って……、こんな形になったんだねえ……」だったのは、新しい有機体/生き物が生まれてきた瞬間にみんなで立ち会った感覚に近かった。面白いのは初めての体験だった。このメンバーだったからこそ生まれてきた奇妙で魅力的な塾の形を見つけた。でも、二度と同じ形にはできない。(きつと自分中心的な感想なんだけど、僕自身、新美塾!で、中高生に何かを“教えよう”なんて実は思っていなかったのかもしれない。みんなと同じで何か新しい自分の能力を知りたかったし、中高生から学びたいという気持ちでこの半年、いや1年を駆け抜けた。つまり、一つ一つのミッションでみんなが学ぶのではなく、その反応で僕が学ばせてもらったのであり、みんな“全員が学びたいという姿勢”を持って一つの場所新美塾!を作り上げていくこと自体が表現の学びであったのではないかとか、いや、即興で制作したパフォーマンスの1回限りの公演が終了したような感覚でもある……とか、頭のなかはまだぐるぐる回っているが…) 新美塾!の第1期はここでおしまい。卒業です。少し寂しいです。

この場所で感じたり、体験したり、学んだことは、すぐには発芽しないだろうけど、いつか、それぞれの中で何かの形になるかもしれない。(いや、既に、僕の中ではこの新美塾!で見つけた何かを前進させようという心が動き始めているし、みんなの中にも何かが始まっているのではないかと)

スタッフも僕も、途中で何度も、みんなの成長や発想や無邪気さや生命力を目の当たりにして涙が出そうになった。「彼らを見てみると未来の地球は大丈夫だと思える」と、真住さんは言っていたけど。確実に僕自身、きつと以前の僕ではないくらいに変わってしまったはずで、本当にたくさんのことを学ばせてもらった。本当にありがとう。

最後に、このような実験的な企画に、果敢に挑戦した中高生たち、そして大切な子供さんたちを預けてくださった親の皆さん、そして形のないプロジェクトを理解し全力で並走してくださったスタッフの皆さんに感謝を示したい。本当にありがとうございました。

この閉塞感が高まる時代や空気なんて、ふと道端の雑草の美しさにふと足を止めたり、小さな庭に種を植えて水をやったり、誰かのために美味しい料理を作ったり、そんな日常の小さな創作行為が風穴を開けてくれると信じています。個人的にいつでも連絡ください。相談にもります。直島にもきてね。ではひとまずこれで。

みっちゃん(下道基行) 2022年12月19日(卒業式翌日)



卒業式 ユースのコメント



オフ会でやっぱ東京に来れたのが楽しくて。地元に来たのならばらくいと、うわーっ！でなるので。そのためにバイトしてそのお金で出てきているので、発散できてよかった。応募してよかったなど。

今後の目標は、面白い大人になる。今の自分が楽しみにしていることはそういう面白い人になることで、いっぱい吸収して面白い大人になる。かまぼこ板の模刻はまだ作ってるのでとりあえず完成させたい。将来のことはまだ迷走して右往左往してるけど、楽しく生きようかなという感じです。

自分のいろんな所を知りたかったっていうことがあって、ミッションとか取り組んで自分ってこんな人だったんだみたいなことが知れたし発見できた。今後は、発見した好きなことにもっと取り組むみたいなことをしたいです。



~~~~~  
いろんなアーティストの意義、美術としてとかどういところで仕事しているのかなとか、どういうバックグラウンドで始めたのか

~~~~~  
ていうのがわかってよかったです。今後の目標は、意味あるものを作る。最近、暇なときに工作とか絵をかいたりするけどなんかちょっと意味がなくて、捨てちゃったりこわれたりするから、生活で使えるものとかそういうものを作りたいです。



私はイラストばかり描いていて、今もちょっとイラストをやらせてもらったりもしてるんですけど、その、そこだけにこだわってないで、ほかのことをやった方が多分私にはあうなって気づきました。立体とか最近手を出し始めてなんか急に心が軽くなったので、ちょっといろんなことやりたいなと思ってます。今後の目標は、でかいものをなんか作りたいなあって。オブジェとかなんか。服とか作って、りゅうじワールドを展開させて、いずれは世界征服をしたいなと思ってますね。

~~~~~  
お母さんにありがとうって言いたい。最初は新美塾に受かんないと思ってたから。合格したって言った時になんか結構喜んでくれた。自分以外の人に出会って、その他の人たちの好きな事とか知れて、なんか自分もやってみたいなって思った。あんまり実践できてないから卒業を機にやりたい。

~~~~~  
面白かったミッションが納豆と箸。箸っていったら細長いものを最初にやっぱ思い浮かべるのに、ラケットとかで作った人がいて。ラケットは、部屋においてあるので、いつも見てるのに、箸になるとは想像もしてなかったのが結構面白かったっていうか、ビックリした。あと納豆はテスト期間中で作れなかったんですけど、私じゃなくて妹が作り始めたんです。お母さんと妹がテスト期間中に勉強してる間に作り始めた。今まで版画とかってあんまり見てこなかった。なので、風間さんとか、作った人の気持ちっていうかどういふうに考えて作ったんだろうっていうのがわかったんで、すごいよかった。

風間サチコさんはアーティストとして成功している方と思うんですけど、やっぱその馬鹿と天才は紙一重じゃないですけど、バカって言うわけじゃなくて、やっぱちょっと変わってる人がアーティストとして成功できる。頭いい人だけがすべてじゃないんだなあっていうのがそこで分かりました。今後は、まず料理人になるための一歩として、高校で料理の専門高校に入りたいなと思ってます。

~~~~~  
カメラのミッションは、私、空を撮るのが好きなのでなんか楽しかった。印象のこったことは、山下陽光さんと、洋服に、花という文字をデザインするとか面白い発想だなと思いました。新美塾に参加してみて、年の違うメンバーと話せたり、ミッションとかいろんなことができて楽しかったです。今後の目標は、ハンドメイドとか、自分で作って売ってみたいです。



~~~~~  
何かをしちゃだめとか、そういうことを考えない自由さみたいなのをすごい感じて、自分になところだなと思って

~~~~~  
てすごい面白かったです。一番はそういう新しい価値観とか考え方にふれられたってことで、日常ってということから探すっていうことを学ばせていただいたというのがある。今までけっこう自分は新しいものに何かチャレンジするとか、その新しい環境に自分で飛び込んで、そこで刺激を受けて何かするみたいなことが多かったんですけど、そうじゃなくて今いるその自分の当たり前になってることを見直してみるみたいな時間を持てたのが、すごく自分の中でもよかった。



自分の好きなものを考えたりとか、時間をかけて考えてつくってというのがすごく楽しかったなというのがあります。風間サチコさんはなんかもう全部が自分にとって新しい未知の世界だったので、すごい刺激的で楽しかったです。新美塾は、やっぱりすごい刺激的だなって思ったんですけど、刺激的なことと同時にすごいゆるやか、ゆったりして、学校とか勉強とかで競い合わなきゃいけないけど、新美塾ではみんなが好きな方向に進めるから、競い合わなくていいというか、なんかすごいゆったりした空間で、すごい心地がよくなったって思う。

~~~~~  
風間サチコさんのスタジオビジットが印象に残ってます。みんなの、のあが名前つけるのがめっちゃうまいとか、ゆうげんが絵がめっちゃうまいとか、ひとりひとりみんなになんか個性がよい所があって、そこがやっぱり自分の刺激になったし見て楽しかったし、勉強になった。街とか歩いて、CMを見たりしても、全部が表現されているもので全部が作品なんだなってことに最近気づいた。自分も大人になってもそういう表現をしつづけたいと思うようになりました。自分の経験をもっと生かしてオンラインワンなものをつくりたいと思います。



~~~~~  
箸を作るミッションと人間図鑑のミッションが面白かったです。箸はみんなのアイデアが面白かった。人間図鑑はやったことによって、なんか散歩に出ることが楽しくなった。見えるものの描写がすごい繊細になったっていうか、そういう影響が出てすごい毎日が楽しかったです。大竹伸朗展が印象に残っています。考えるんじゃなくてインパクト感じてってミッチーに言われたんですけど、正直、自分は心が硬くて人に心を閉ざしちゃうタイプ。だけど、その日から作品との向き合い方っていうのがすごい変わったと感じてます。なんか頭で考えちゃうタイプで、どう感じるか、それが自分に吸収されてる感じが新感覚だった。新美塾に参加してみて、自分の意見を絶対言えない人だったのが、意見というか表現したりするとか、話したりすることが前よりも安心してできるような場所。すごいよかった。今後の目標は子供心というか遊び心を持った自立した大人になりたいです。





## 卒業後の保護者のアンケートから

美術館やアーティストのことで盛り上げられる仲間がいなかったため、今回の新美塾!での活動は、水を得た魚のように生き生きとしておりました。半年は短かった! のんびり系なので「やっと様子がつかめてきたところで、もう終わってしまった」という状況で、ぜひOB枠で次期も参加させていただきたい、サポートでお手伝いしたいと話しておりました。入塾して、視野が広がっただけでなく、遠くの未来や夢などにも意識が向いたように思いました。感謝いたします。たくさんのステキな大人の方々に支えていただけたことは、ミッション同様に大きな糧になったようです。

ズームでの会話が、以前は受けつけられませんでした。みなさんとオンラインで会話して行くうちに、全く違和感なくコミュニケーションを取れるようになったようです。

オンラインやオフ会での体験は、大変深いものだったようです。「現在」の大きな変化はわかりませんが「将来」に影響を与える体験だったと思います。

本人は楽しんで取り組めたようですし、自信も深め将来への目標へ向かう意欲も高まっているようですので、とてもよかったです。

半年間でぐっと大人に近づいたと思います。新しい事を自分で考えること、考えを相手につたえること、対等に扱ってもらうこと、一人でいろいろなところに行ったこと、今まで行ったことのないディープな世界(ハンセン病資料館、新大久保)に行ったこと、風間サチコさんや山下陽光さんのスタジオビジットをしてモノづくりを見たこと、ラジオでトークしたことなどの体験を通して、本人は飄々としていますが、確実に自信がついたのを感じます。

封書で送られてくるミッションは、とても刺激的でした。ラインやメールでは味わえない、空気や香りも封筒の中に詰まっているような感覚でした。封を開ける時の本人の気持ちは、不安と期待の複雑な心境だったように思います。新美塾に申し込む前、本人は、自分自身を認められない状態でした。新美塾にチャレン

ジしたいと言われた時、そして選んでいただいた時は、家族で喜びました。本人が1番嬉しかったと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。



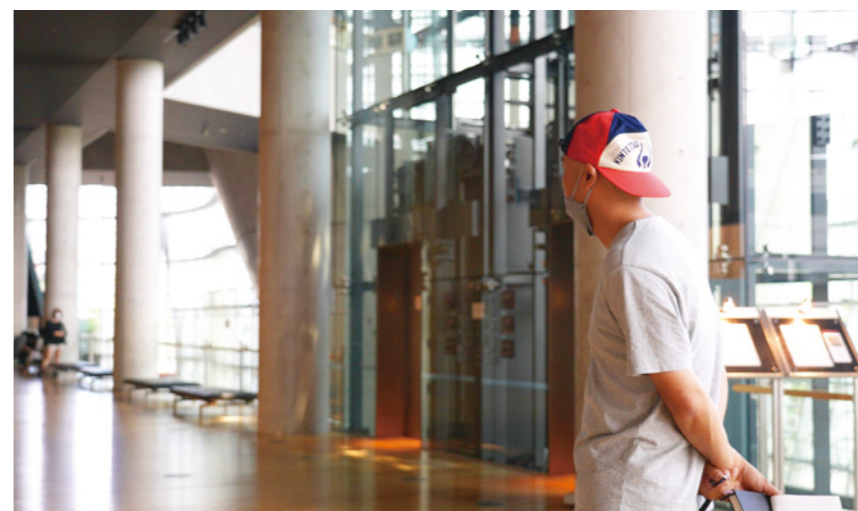
何かを表現したい気持ちがあるのに、どうしたらいいのかわからない自分と、新美塾の皆さんの凄さに落ちこむこともありましたが、ミッションもうまく理解できず、全く手につかないこともありましたが、一人で考え、一人で待ち合わせ場所にいき、忘れずにzoomに入るだけでも、本人にとっては難易度の高いミッションでありました。全て参加でき、自信につながったと思います。

この1年、学校関係で息詰まるが多かったので、よい気分転換になっていたと思います。本人はオンラインよりも外出(オフ会?)を楽しみにしていた印象でした。このご時世ですし居住地の問題もあるとは思いますが、外出が多い方がよりたくさんの経験ができてよいかもかもしれません。

ミッション一つ一つが、親の私から見たら、わくわくする内容でした。ただ、郵送で送られてきたため、本人がじっくり読み、込められた意図を理解できたのか不明です。その点で、ミッションに向き合う意欲が小さかったと感じています。コロナが落ち着いた時期なので、可能な限り対面での開催が実現していたら、もっと有意義なワークショップになっていたと思います。全行程対面でもう一度参加させていただきたいと思います。

本人は、ちょうど大学の学部選考の時期でもあり悩みながら挑戦しておりましたので、新美塾での活動は自分が心躍ることは何か、改めて確信することにもなって、学校の定期テストにも力が入って、お陰で希望の内定をいただけたのだと感謝しております。本人は新美塾に恩返しができるくらい大学に入ったら様々なことに挑戦して力を付け、先生方のようなクリエイティブな社会人になれるように、学芸員の資格も取りたいと意気込んでおります。ユースたちに惜しみないチャンスを与えて、それぞれの良さを引き出し、受け止めてくださったことに感謝して止みません。私自身、教育の本質を学ばせていただきました。本当にありがとうございました。ユースだけではなく、親世代も新美塾があればいいのに願ってしまいます。

アート教育の大切さを感じる昨今、その時代ごと一人ひとりのユースごと、活かし合って、心が響き会える新美塾のご発展を心より祈っております。本人の学びの機会になりますので雑務などお手伝いできることがあれば使ってやっていただけたら幸いです。今後とも何卒よろしくお願いたします。ほんとうにほんとうにありがとうございました。





## スタッフコメント

中高生対象のプログラムを開始するときは、いつも不安がつきまとう。思春期というある意味大人を見る目が一番厳しい時期を過ごす彼らに、常に私自身が試されているように感じるからだ。一方で、これからの可能性に満ちた人材に会えるという期待も大いにあり、不安と期待で始まった新美塾だった。しかし集まったユースの顔ぶれをみて、これは絶対に面白くなるぞ!と、不安は確信に変わった。ユースのバックグラウンドは様々で、皆とても個性的であると同時に非常に健やかで、未来を託せる信頼できる仲間だと思えた。下道塾長のユニークなミッションと触れ合いの中で、それぞれがぐんぐん成長している様子をいつもまぶしく見ながら、黒子で走り回る役目はとても充実していて楽しい時間だった。

真住貴子



新美塾!の1期生の卒業から3ヶ月が経とうとしている。記録集の校正作業をしながら振り返ってみると、下道さんと塾生達と過ごした半年間は、日常の片隅にある宝物を探し訪ねる旅のようだったと思う。オフ会で街を歩き回り、自宅からオンライン会に参加して、休日はラジオを「ながら聴き」する。そうしているうちに、別々の場所で違う生活をしていても、日常の中に新美塾!と塾生達の存在を感じるようになった。互いの姿は見えなくても一緒に旅をしているような感覚だった。10代の旅人たちの中心には下道さんがいて、一人一人の話に耳を傾けている。個性を開花させていく塾生を、周りで嬉しそうにスタッフが見守っている。新美塾!の半年間は、そんな一団が歩んだ、行く先を決めない旅だった。

きっと今日も1期生のみん中は旅を続けていて、私は若い旅人たちが切り拓いていく世界を想像しながら、心を弾ませている。

吉澤菜摘

身一つで世界と対峙し表現を続ける下道塾長と、新美塾!について考え続けた日々は、大人達にとっても、他でもない自分の人生を生きることに立ち返る瞬間に溢れていた気がしてならない。そこには、こちらが教育的な場を提供する構図は存在せず、未来への期待と不安を丁寧に抱えている塾生達と、一緒に感じて、考える、全員の日常を巻き込んだ即興演奏が生まれていた。それはまた、14歳、あるいは17歳を生きていた自分の姿、その時感じていたこと、聞いていた音楽、見ていた風景……忘れかけていた10代の自分に見えていた世界の在り様を取り戻す時間でもあったのだと思う。彼らが紡ぎ出す言葉や表情から滲み出る「自分であろうとする姿勢」のようなもの。その断片を受け取るたびに、このプロジェクトが単なる美術館の教育プログラムではないことを実感していた。

世界はもっと面白いよ、美しいよと、小さな声で囁けるような場所に、これからも関わってきたい。

山際真奈



新しいことにチャレンジするという事は、ドキドキして楽しいことである。今回、始まった新美塾!はまさにドキドキの連続だった。私は、事務員としてこの新美塾!に関わってきたが、毎回ひねりにひねったミッションを、それを送る封筒に新美塾!のゴム印を押しながら楽しく読んでいた。私は、オンラインやラジオの収録の立ち合いなどには、参加せず、後日ラジオを聴くのはものすごく楽しい時間だった。自分が中高生だったころと比較して、塾生のみん中は、はっきりと物事を伝えられると感心していた。ラジオでは面白いエピソードもあった。旅行先で魚を捕る網がなく、手近にあったペットボトルを使って、その吸引力でドジョウを捕まえたという話は、瓢鮎図を思い起こさせるようで、とても面白く、最も記憶に残っている。来年度以降も塾生から、ドキドキするような新しい発見を得ていきたいと思っている。

杉本雅晃



技術を身につける、感性を磨く、視野を広げる。全部当てはまりそうだけど当てはまらない。じゃあ「新美塾」は何をすることだったのだろう。

自分の「日常」への違和感があぶり出されるミッションや、他者との違いを感じるとる全員参加のオンラインミーティング、アーティストが持つ感覚がビシビシと垣間見えるスタジオビジットetc...

そんな時間が、それぞれの生活にそっと寄り添い生まれた半年間

参加したみん中は、どんな風に受け止めたのだろう。違和感の正体が解ったり解らなくなったり、日常が面白くなったりまた戻ったりしたのだろうか。

もしそうだとすれば、新美塾は何かが身につくその少し手前の「模索する」を広げる場所だったのかな。そして新美塾は、大人も子どももそれぞれが、時には一緒に模索し続けた半年間だったし、「塾」と名付けた意図がしっかりと来る場所になったと思う。

丸尾隆一





## 新美塾!

[塾長]  
下道 基行

[新美塾! 1期生 (50音順)]  
いっちゃん  
えな  
かなた  
ざっきー  
じゅんぺい  
ちよ  
とみ  
にこにー  
のあ  
まりん  
ゆうげん  
ゆら  
りゅうじ

[国立新美術館教育普及室]  
真住 貴子  
吉澤 菜摘  
山際 真奈  
杉本 雅晃  
柴澤 希

[国立新美術館インターン]  
菅原 真彩  
林 直央  
日隈 脩一郎  
吉岡 直哉

[撮影・ビデオグラフィー]  
丸尾 隆一

## 謝辞

新美塾!のためにご協力いただいた  
関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

風間 サチコ  
山下 陽光

国立ハンセン病資料館  
渋谷区立松濤美術館  
東京国立近代美術館  
長谷川町子記念館  
長谷川町子美術館

(敬称略・50音順)



《NACT YOUTH PROJECT 2022 新美塾!》記録集

編集

国立新美術館  
下道 基行

記録集デザイン

畑 ユリエ

発行 国立新美術館  
〒106-8558  
東京都港区六本木7-22-2

発行日 2023年3月31日

©国立新美術館  
ISBN 978-4-910253-06-0



NIHON SEKKEI

国立新美術館の教育普及事業は、株式会社日本設計、キヤノン株式会社よりご支援  
いただいております。

Canon



国立新美術館ユースプロジェクトのウェブサイトでは  
新美塾!の動画も公開しています。





